

~~~~~ 再エネシンポジウム ~~~~~

# でんきで ちいきを げんきに ～ネットワークを広げよう～



REPT

NPO 法人  
**新 エネルギーを  
すすめる宝塚の会**

No. 26

2018年4月13日発行  
理事長：中川慶子  
〒665-0875  
宝塚市中筋山手 3-2-10  
(TEL/FAX)0797-88-1381  
<http://rept.or.jp>

2018年5月26日(土) 14:30~16:30

宝塚市立男女共同参画センター1A B (宝塚駅直結ソリオ 2-4 階)

☆益尾大祐さん (コープこうべ企画政策部環境推進統括)

☆西田均さん

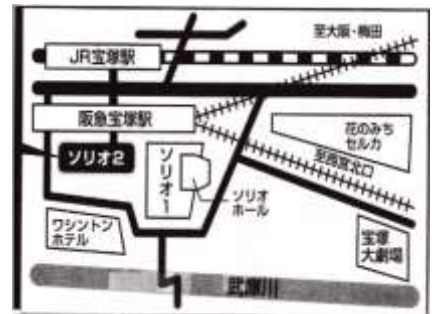
(一般社団法人西谷ソーラーシェアリング協会理事)

☆古南恵司さん (宝塚市環境部地域エネルギー課長)

☆井上保子 (株式会社宝塚すみれ発電代表取締役)

☆定員：80人      ☆キッズコーナーあります

☆参加費：300円



**申込制** REPT の HP (<http://rept.or.jp>) お問い合わせ欄からお願いいたします  
または TEL：0797-74-6091 FAX：0797-88-1381

《宝塚エネルギー2050ビジョン》実現のため、宝塚では市民と行政が協働をすすめてきましたが、この度「宝塚すみれ発電所第3号」の電気が“コープでんき”に買い取られ、各家庭に供給される運びとなりました。また、“西谷ソーラーシェアリング協会”は一般社団法人となり、より一層活発に再エネを広げていこうと張り切っておられます。

市民・NPO・協会・行政・生協、……みんなが輪になって「エネルギーの地産地消をすすめよう！」のネットワークが広がっています。

持続可能な社会を目指し、足元から生活を変えていこうとしている実践者のみなさんから具体的なお話をきいて、私たち世代、将来世代の命と暮らしを守る道を見つけましょう。

**第7回通常総会 2018年5月26日(土)13:30~14:30**

**後日議案書と出欠表をお送りいたします。正会員方はぜひともご出席ください！**

## 「しがエネルギービジョン」の取組～新しいエネルギー社会の実現に向けて～

1月21日、宝塚市と共催の懇談会で、滋賀県エネルギー政策課の中嶋洋一さんから滋賀の取組についてお話を聞く機会をもちました（第1部）。近畿の水がめ琵琶湖を擁する滋賀県のエネルギー政策は私たちにとっても他人ごとではありません。

2016年に策定された「しがエネルギービジョン」は“原発に依存しない新しいエネルギー社会の実現”であるとし、同時に“環境への負荷が少ない低炭素社会・地域内経済循環による地方創成・災害等のリスクに強い安全・安心な社会”の実現を基本理念としています。脱原発を前面に打ち出しているか否かを別とすれば、基本精神は「宝塚エネルギー2050ビジョン」と同じであり、全国の住民の願いでもあるでしょう。

問題は地域経済の活性化の鍵は「エネルギー」にあるとして、「創エネ」「省エネ」（地域内投資）による地域内資金循環を活発にして地域外への資金流出を最小化しようとする精神が生きているかどうかです。県と市との違いはあれ、宝塚市ではエネルギーへの投資に対する議会多数派の理解が皆無に近いということを私たちは3月議会で身をもって体験したばかり。私たちが学ばなければならない点です。



2017年度の「しがエネルギービジョン」の認知状況についてのアンケート調査によれば、認知率：聞いたことあり 34.8%・内容まで知る 15.6%となっています。「宝塚エネルギー2050ビジョン」はどうかしら？多分それほど認知されていないのでは？と不安になります。日常生活の中で周りの人たちに伝えているかしら？と反省の念が沸き起こります。

中嶋さんたちは去年の11月から25回にわたってYou Tubeで「しがエネルギームーブメント」という動画を配信して住民の興味を喚起しておられます。すごく面白くためになるのでぜひご覧ください！（URLは最終行）

また、産・学・官・金・民の5セクターが再生可能エネルギーやエネルギーに関する情報を共有しながら、様々な課題を議論し、問題解決に向けて相互に連携・協力して取組を推進する「しがスマートエネルギー推進会議」を設置し、17団体が構成団体となっているという点も学びたいところです。REPTが5月26日に予定しているシンポジウムのテーマにしていますが、宝塚市でも少しずつネットワークの広がりが出来てきました。市にはリーダーシップを取っていただいて、市役所内の各部局間や産学官金民間でのネットワーク構築によって、再生可能エネルギー推進によるまちづくりを進めてほしいものと切望します。財政難の今、エネルギーの節約と創出によって市の財産が市外に流出するのを防ぐだけでも、市の活性化に寄与することが出来るのではないのでしょうか。

中嶋さんは開口一番「滋賀県人は新し物好き」としてお国自慢をされましたが、宝塚市民も新し物好きでは負けていないような気がします。伝統を尊重しながらも新しい未来を切り開いていきましょう。

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLz5WWvVQew68msn\\_hAUkSz7FE2jsjPqdQ](https://www.youtube.com/playlist?list=PLz5WWvVQew68msn_hAUkSz7FE2jsjPqdQ)（しがエネルギームーブメント）（なかがわ）

## ワークショップ『宝塚エネルギーをみんなで考える』

中嶋さんのお話を聞いたあと、参加者が5つのグループに分かれ、「再生可能エネルギーを増やすアイデア」を話し合いました。それぞれのテーブルで話が弾み、さまざまな意見が出ました。書き出してみます。

### \*再エネ普及・省エネのアイデア

- ・ゴミ利用⇒バイオガス発電&コンポストで肥料化
- ・地熱利用・コジェネの推進⇒太陽光だけでなく、自然エネルギー利用の幅を広げる
- ・家畜のし尿⇒バイオガス発電⇒液肥⇔有機農業
- ・太陽熱利用⇒スポーツ施設や老人施設など常時お湯を使う場所で
- ・住宅の断熱⇒断熱住宅＝健康住宅の情報を共有。健康維持＝医療費の節減
- ・小水力⇒農業用水利用の可能性を探る

### \*市民がやっていくこと

- ・再エネを考える気軽なコミュニティづくり：都市部での井戸端会議は難しいが…
- ・電気がどこからどうやって来るのか考える
- ・消費：宣伝に惑わされず、必要か不要かを各自が見極める
- ・北部西谷地区の潜在エネルギーを引き出す
- ・埋もれている有能なOB人材の発掘&活用



### \*行政にやってほしいこと

- ・宝塚エネルギー2050ビジョンの具体的段階目標の設定（市民に知らせる）
- ・電気だけでなく、運輸にも省エネを：自家用車⇒公共小型バス（高齢化社会に向けても）
- ・空き家対策：モデルリフォームをして、ゼロエネルギー住宅に
- ・子ども達の省エネ・再エネ教育をもっと広範囲で実施
- ・市役所内での縦割り行政の弊害をなくす⇒テーマに添った人脈作り

短い時間でしたが、市民と行政が再エネをすすめていく上でヒントとなるアイデアが多数出ました。実現のため、協働の関係作りが大切です。

## ふれあいトーク

上記のワークショップの発展形として、3月10日に地エネ課職員との「ふれあいトーク」を実施しました。現在までの「宝塚エネルギー2050ビジョン」の詳しい進捗状況を説明してもらい、これからの30年で目標を達成するにはかなりのテコ入れが必要と確認しました。

本年度地エネ課は、次のような事業計画を立てているとのことでした。

- ・公共施設で再エネ電力調達を進める
- ・市役所内用の「再エネガイドライン」を作成し、今後の公共施設建設時は必ず地エネ課を通すこととし、再エネ導入を入れ込むように働きかける
- ・上下水道利用の小水力発電の調査研究。実現方法を模索している
- ・西谷木質バイオ利用の促進
- ・西谷家畜糞尿バイオガス発電へ向けて、糞尿処理について聞き取りをする。

今後とも、このような意見交換の機会を増やしたいと考えています。

（田中あ）



## ソーラーシェアリングをめぐる新しい動きに注目！～再エネの前進と後退～

今年、2月1日に新しい団体が立ち上がりました。その名も「一般社団法人西谷ソーラーシェアリング協会」です。名前の通り、宝塚市北部の西谷地区を中心としたソーラーシェアリング事業を進めていく団体です。メンバーは西谷の地主さんを中心に、宝塚すみれ発電、REPTは法人格をもって設立発起人として名を連ねています。



現在、西谷のソーラーシェアリングは6基。いろいろな人たちを巻き込みながらこれまで進めてきましたが、さらにこれからまた未来を見つめてやっていこうということで、元々あった協会を一般社団法人（以下、一社）化しました。ここに私たち法人、農業者の方々、学習塾経営の方などが加わり、力を合わせてやっていこうということになったのです。一社として初めての仕事は、ソーラーシェアリング市民農園に研究畑展開で参入している地元「甲子園大学」への対応です。昨年まで宝塚すみれ発電の区画で行ってきた甲子園大学の研究ですが、今年は一気に面積を拡大。14区画を実践演習の場として借りていただくことになりました。指導するのは一社メンバーの農業従事者であるSさん。大学生たちを楽しく農業に導いてくれることと思います。

そして、今回またソーラーシェアリングを3基増やすことにしました。すでに設備認定申請を行っていますが、資金調達の大半は一社として兵庫県の無利子融資制度に応募することになっています。そして、二人の心強い農業者の方たちが力を合わせて畑の準備を始めました。楽しみです！

さて、こんなに頑張っている地主さんたちの心をげんざりさせるようなことが、地元の宝塚市で起こりました。宝塚市には再エネを推進するための条例も作られているのですが、他に「小規模事業用太陽光発電設備課税免除制度」というものがあります。これは、10kW以上50kW未満の太陽光発電設備に対して5年間の固定資産税を免除するというものです。この制度の導入で、決して安くはないソーラーシェアリング運用のキャッシュフローにゆとりが生まれます。設備建設に補助金を出すのではなく、こういった形での行政の応援は設置者にとって嬉しい応援でした。

しかし、3年経ってこの制度を継続か否かという段になって、議会から理解が得られないという信じられないことになりました。緊縮財政、取れる税金をわざわざ無くすというのはよくない、というのが理由のようでしたが、私たちは納得できません。市が決めた再エネ推進です。その中で議論して出来上がった減免制度で、議会も納得して通したはずだと食い下がり、なんとか撤回してもらいたいと頑張りましたが、結局は減免制度は打ち切りとなってしまいました。

もっとわかりやすい形の応援を、「たとえば補助金を出すとか」と議員からは提案があったようですが、財源がどこにあるのでしょうか？そして、財源がなくなったらその後はどうするのでしょうか？再エネを、地域で進めていくことが農業や地域の活性になると考えてそれを行動に移してきた地主さんとしては「行政も応援してくれているソーラーシェアリングだから」、という説明が出来なくなってしまいました。農業応援のためのソーラーシェアリングであり、もっと多くの方の理解を得ていく必要があるとあらためて思った次第です。しかしここで歩みを止めるわけにはいきません。放っておけば数年先が見えない地域を、再エネというツールを使い「みんな」盛り上げていきたいと考えています。

宝塚すみれ発電

井上保子

## 「まるごとエコのサイエンスショー」に協力参加して

宝塚市地域エネルギー課主催の「まるごとエコのサイエンスショー」に「新エネルギーをすすめる宝塚の会」メンバーとして、「温暖化防止教育をひろめる会」の皆さんと一緒にボランティア参加してきました。講師は「浪速のでんじろう」こと立命館大学理工学部の船田智史先生です。3回シリーズで、第一回は11月25日「電球のひみつ」、第二回は12月16日「二酸化炭素のひみつ」、第三回は1月27日「発電のひみつ」です。各回親子や家族100人の参加で分かりやすい科学実験を通して地球温暖化の仕組みを理解し、エコロジカルな生活と習慣を身につけてもらうというイベントです。

私は初回と二回目に参加し、講師や子供たちの実験が円滑に進むよう補助をさせていただいたのですが、これがなかなか面白いのです。参加した子供たちの知識はとても豊かで講師の質問にも、想定以上の答えを返してきます。ペットボトルで作った風車をうちわであおいで発電させてLED電球を点灯させたり、二酸化炭素を大きな風船に詰めて、同じ大きさまで空気を入れた風船と重さ比べをしたり、やかんの水蒸気で風車を回す発電機を作ったりする実験の数々やお話により、自然を使う様々な発電方法があることや、二酸化炭素が地球温暖化の原因物質だということを子どもたちが理解し吸収していく様子は感動的でした。

今回参加した皆さんが、このイベントに触発されエコな生活を実践し、その子供達が成長して新たな家族や友人とエコロジーに配慮した生活をしてゆき、その輪を広げていくのです。宝塚市が掲げる「宝塚エネルギー2050ビジョン」は、2050年までに家庭用電力および熱利用を40%削減し、再生可能エネルギーで50%を自給するという目標を達成させていくというものです。今回の参加者がその主役となる、そんな期待を膨らませることができました。(馬場 滋夫)

## 環境出前授業

「温暖化防止教育をひろめる会」と協働で行っている《環境出前授業》、本年度も長尾小学校(5年生6クラス)と末成小学校(4年生2クラス)に出かけました。

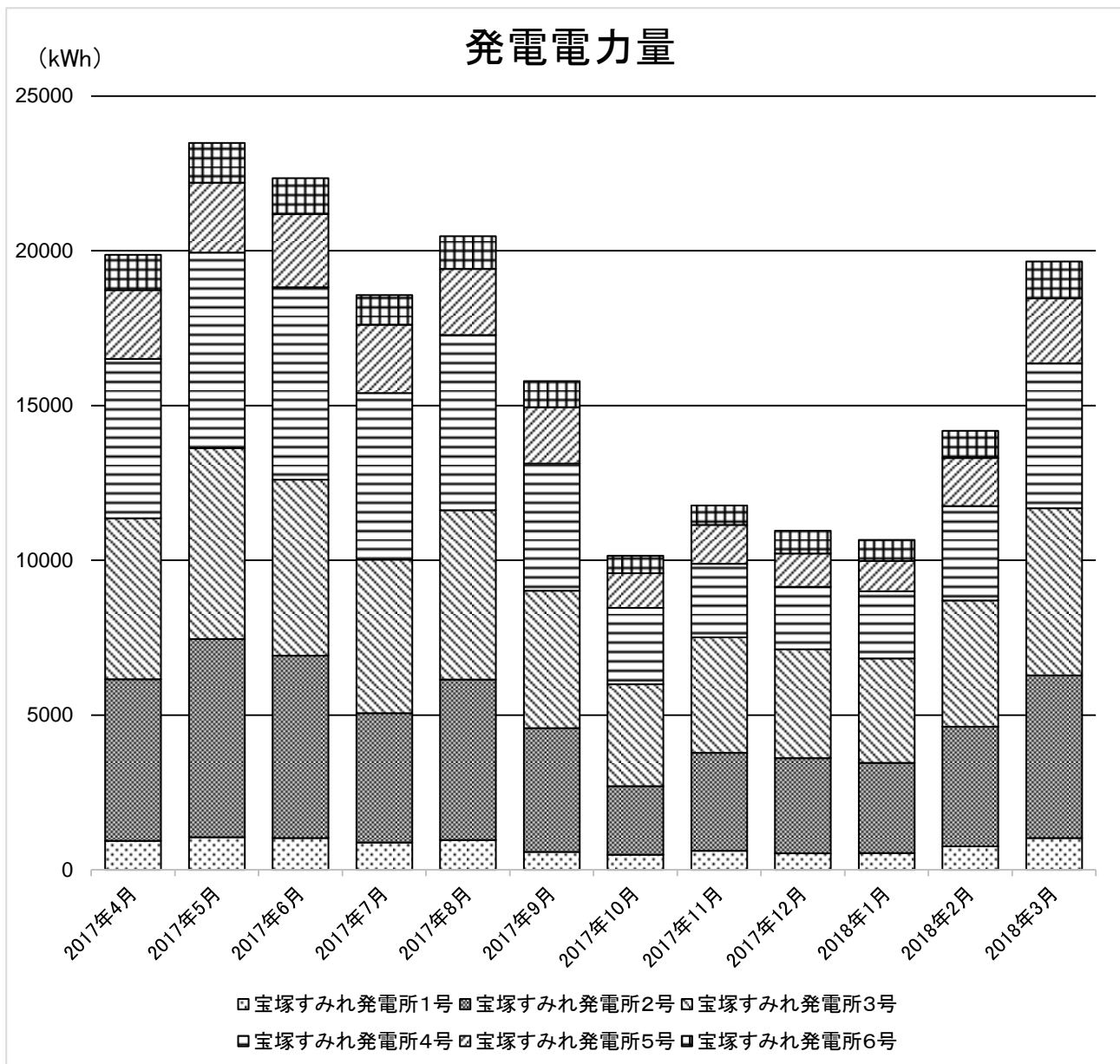
12月には、それぞれの小学校で、待ったなしの対策が必要な地球温暖化の実態、その原因やこれからの環境の悪化などパワポで示し説明、ひとりひとりの努力に地球の未来が掛かっていると力説しました。その後、発電自転車や手回し発電機で、白熱球とLEDの電気消費量の違いを実感してもらいました。やはり自分でやってみると、LEDの省エネ効果がよくわかります。

子ども達の頑張りや家族への伝播を期待して、冬休み中のエコチャレンジを記録するエコチェックシートを渡しました。さて、冬休み中どれくらいやってくれるでしょうか？

冬休み後、回収されたエコチェックシートに基づき、生徒たちの実践度合を示すレーダーチャートを作図し、頑張りに対するコメントを書きました。約200人の生徒それぞれにコメントを書くのは、手分けしてやっても大変でした。先生から感謝され、やりがいはあるのですが。

長尾小学校は冬休み後の授業が設定できないとのことで、エコチェックシートを返却するだけになりましたが、末成小学校は2月に再訪し、紙芝居「エネルギーの歴史」とシートを直接返却しました。その時、とても嬉しい出来事が……。

末成小学校では、10才の記念に「2分の1成人式」をして、将来の夢を書きます。その作文をひとりの生徒が読んでくれました。彼女は、環境授業を受けて「地球温暖化防止や環境保護に貢献する科学者になりたい」と。種を蒔き続けるのが大切と実感したものです。(田中あ)



### 🌸 🍃 🍓 🌸 🍃 🍓 お知らせ 🌸 🍃 🍓 🌸 🍃 🍓

- 🍓 バイオガスシンポジウム～資源循環型の地域づくり 農業・家庭・食品の現場から～  
 4/18 (水) 13:30～16:30 (申し込み終了)  
 兵庫県看護協会ハーモニーホール (神戸市中央区下山手通 5-6-24)  
 基調講演: イタリア・ピアーナファームの取組 (カルメロ・バジレ氏)  
 シンポジウム: 弓削忠生氏、梅津一孝氏、井原一高氏、児玉かな氏、児玉充弘氏、  
 益尾大祐氏、カルメロ・バジレ氏
- 🍓 第11回ちきゅう Café「ピアノ演奏とフェアトレードカレーを楽しみながら地球環境を考えるゆうべ」  
 5/26 (土) 18:30～20:30 (18:00) 開場 カレー&カフェバー リピジャ  
 堺筋線「扇町駅」/JR環状線「天満駅」 1500円  
 (申し込み) [office@casa.bnet.jp](mailto:office@casa.bnet.jp) 06-6910-6301 (平日 11:00～17:00)  
 共催: 熊猫音楽舎。CASA 他